



# 性は人間の絆の根源

小島 直美

電話相談も子どもの発達に伴ってさまざまな問題の移りかわりがあります。どんな内容でも、相談を受ける側の基本は困っている相手の気持ちを受けとめよく聴いて理解し、その人が自らの気持の中に困難に立ちむかっている力が生まれることをお手伝いするということだと思えます。

その原則の中で、ふと迷いや困惑に陥るのが思春期の男の子からの性の相談です。今回は子どもの発達や人間にとって性とは、の視点もふまえながら電話相談における性の問題を考えてみたいと思います。

## 思春期の男の子からの多様な悩み

電話相談という仕事について初めの半年、全相談の三分の一近く、多い月は半分近くが性の相談でした。

- ・オナニーは体に毒ですか。
- ・包茎は直るんですか。
- ・女性の体のことが気になって頭から離れず勉強も手につかない。
- ・ガールフレンドとのセックスがうまくいかない。
- ・母（姉・妹・義姉）への性衝動が押さえられない。又、実際に性関係を持ってしまった。
- ・学校の女の先生をレイプしてしまった（隣のお姉さん、姉の友だちの場合も）。
- ・小さい女の子に自分の性器を見せたくてたまらない。
- ・女装に興味があり、男性にしか関心がない、

等々。

もちろんほとんどが男性からです。さらに相談として成立しない悪戯電話や堂々とテレフォンセックスを要求するものまであり、正直にいつてびっくりしましたし戸惑いました。

中には本当に悩んで、人に言えないことだしやっと思いきって電話をした、という相談もあるでしょう。情報ばかりあふれているのに自分の体には不安を持っている中・高校生が多いのも事実だと思えます。話を聴き、正しい知識を返し、さらに性を大切なものとして語りあえることができれば、と努めてもきました。しかし残念ながら、「性にまつわる話を誰か、しかも女性と話したい」「それに応える女性、又は女性の声そのものを求めたい」という感じの相談が多い気がしてなりません。それでもこちらがきちんとした対応で相談者の本心を読みとろうとしていくと、悪戯的常習の人がかけてこなくなっ

て、年々全体の相談に対する性の相談の割合は減ってきていました。

### 性は生きていくための大きなエネルギー

そんな中で私なりに思春期の子どもたちの性への関心、揺らぎ、不安を聞いて強く感じたのは、やはり性は性そのものだけを語れることなく人間の本質に深く深く関わっていることなのだろうというこ

とです。フロイトのリビドー論はそれのみで人間の発達やすべてが語れるわけではないとしても、性が生きていくエネルギーに大きく関わっていることは実感させられました。思春期に“自分”に直面する時、体が大きな衝動をかかえておとなに変わっていくことにも深い意味があるのかもしれない



ん。性を興味本位としてしか扱わず、異性を欲望の対象としてのみ登場させる今の日本の“文化？”や風潮だけに影響されたり流されたりせず、相手と自分との関係を大切に尊重しあえる中で、きちんと性に向きあってほしいと思います。

### 性の訴えの背景に自分や家族の危機感か

思春期の子ども達の相談以外でも母親等から性的ことが相談内容として寄せられることもあります。その多くは幼い頃の性器いじりの相談です。そしてほとんどが母親が子どもへの接触を密にし、他の方向の楽しいことへ関心が向けられていくと心配が解消されていくようです。しかし前述のように性を広い視野で考えていこうとする時、何かとても大きな問題を背景に感じさせる相談もいくつかあります。性が生きる力の源であると考えると、子どもがその根本を揺さぶることで自分や家族の存在の危機

感を訴えていると思える相談であり、そのいくつかを紹介したいと思います。

#### 四歳女兒の父方祖母から

孫が「おちんちん」に異常にこだわる。特に母方祖父のおちんちんが好きと言う。おじいちゃん大好き、どこが、と聞かれると「おちんちん」と答える。お金がたまったらおちんちん買うんだ、と言う。

はじめ相談者は嫁の父親が異常なかわいがり方をしているのではないかと心配していたのだが、話を聞いていくうちにいろいろな背景がわかってくる。

この祖母は夫にはやく死なれ、女手ひとつで三人の息子を育ててきたこと、本児の母は精神の病を持っていること、その母は第二子（本児の弟）を片時も離さずに溺愛していること、従って本児は近くに住む母方祖父母に育てられていること、その中で本児

の父（相談者の息子）

は仕事も忙しく家庭内

でも出番がなさそうな

こと、離婚話も出たこ

とがあるが、子どもが

いることで別れずにい

ること、等々。

この相談は遠く離れている祖母からだったこともあり、祖母の不安を受けとめ、一時間半にも及ぶ話を整理し、父親である息子の出番を促す方向に落ちつく。

一週間後、息子が父親として本児へのかかわりを密にしていこうとする意志を語ったとの報告や、本児も就園を控えて家族以外の人間関係の中で生活全体が豊かになれるとよいつの期待が語られる電話があった。



### 小学校四年生女兒の母親から

最近本児が自慰行為をしている場面を頻繁に目にする。かなり叱ったのにやめられない様子。母は気になって「ひとりにはしないように」買い物にも連れていっている。

母親の混乱した気持を聴き、嫌悪感を受けとめた上で性について母親と話しあった。母親自身が自分の女性としての体、生き方、結婚に納得がいていないことが語られる。さらに四か月前、母方祖父が倒れて母が看病に忙しかった頃、本児が母親の財布からお金を持ち出してマンガ本を何十冊も買って隠してあった。本児は誰からもいい子いい子と言われる子だった。三年生までは母と一緒に寝ていたが今はひとりで淋しがり、母に甘えてくることが多い。しかし母親は胸のふくらみかけた本児を心から甘えさせてあげられない。

母親の思いは複雑ながら、それでも今娘の出して

いるサインをしっかりと受けとめてみようとの意向が聞かれて相談が終わる。

### 小学校六年生男児の母方祖母から

中学受験に向けて猛勉強中。母親の下着を隠していた。中にはハサミで切られているものもある。受験勉強のストレスは承知だが、どうしてもがんばらせるしかない。本児も、「僕、絶対受かるからね」と言う。ひとりっ子で同居の祖母はかわいくてかわいくて年中、「みつめている」状態。お風呂でも背中を流してあげておちんちんは大事なところだからよく洗わなきゃだめ、と指導している。

一方で性に関しては祖母、母とも「いけないこと」のみの見方。本児に、変なことするとこわい病気になるよ、エイズは正しくないことをした人の罰の病気、と教えている。

相談員はこの祖母に「性は大切なこと、すばらし



いこと、やっかいかもしれない  
がきちんとつきあっていかな  
ければならないこと」と、少  
つっこんだ思いを伝えてみた。

すると本児の母親が本児を生  
だ後、「息苦しくなる」と性生  
活を拒否していること、精神  
的にも適当に妥協して夫婦を繕  
ていることが語られる。目前の

受験を控え、課題を残した相談だったが横で聞いていた母親にはしっかり何かが伝わった感触が持てた。

### 高校二年生男児本人から

三か月近くにわたって二十回の継続相談。いずれも三十分以上の長い通話。はじめの主訴は夜尿があること。しかしすぐに女子生徒のグループにいじめ

られていることが語られる。裸にされて写真を撮られたり、オナニーを強要されたり、暴言を浴びせられたりが継続相談中も数回起こる。はじめの頃は必ず無言電話を数回かけてからやつと会話のできる状態になり、しかも声は弱々しく、つらさ、悔しさ、憎しみさえ自分の言葉として伝わってこない。相談員は事実の信憑性に疑問を持ちつつ「吐き出したい気持ち」を聴いていく。電話をかけてこられた勇氣、その中に自分で何とかしたい気持ちがあることを支え、楽しいことなど何も無い日常、友だちもいなかったと語る彼の淋しさを受けとめていく。九回目の頃から様々な感情を表に出して訴えてくる。情けないと悔しさをぶつけ、つらいと電話口で泣きじゃくる。時には「ママー」と叫びながら。そのうちに相手に対する怒り、憎しみを攻撃的な口調で語れるようになる。その気持ちの流れを肯定しながらつきあっていく一方、現実の解決に向けての彼の気持ち

動きを援助する。やがて女の子の友だちを得、その二人の協力のもと、保健の先生から担任の先生へと連携で、いじめられている現場に先生がかかけつけて事件が明るみに出た。相談員、女の子の友だち、保健の先生、と女性の援助の中で男として自信をつけていった。その過程は、四歳の時に父親と別れて母親のみに育てられ、その母親ともコミュニケーションの取れにくい生育史の中の欠けていた部分の補いになったのだろうか。

以上、性がテーマになった印象深い事例をふりかえってみて、私自身あらためて性の問題のむずかしさを感じています。

匿名で顔をあわせなくてもよい電話相談は、「言いにくいこと」として性にまつわる相談をしやすい相談システムだと思います。せっかく思いきって電話をしてきた相談者の気持を受けとめ、今起きてい

ることが言いにくいことかもしれないが決して恥ずかしいことではなく、本当はきちんとうきあうべき大切なことであると肯定します。相談者がまず性へのこだわりから解放されることで、子どもが性を手段に子どもとしてあたり前の、自分が暖かく受けとめられて生きていきたい欲求を訴えていることに気づいていきます。

それは、性は人間の絆の根源であり、その絆の中で自分の存在をありのまま認めてもらいたい当然の欲求なのだとおとにも教えてくれます。自分の命、人間として価値ある自分自身の存在、暖かく許しあえる人との関係、それらの根っこが「性」であると言えるのではないのでしょうか。

(元神奈川県横須賀児童相談所電話相談員)